

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	体育					授業形態	実技			
科目コード	750088	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○	
担当教員名	宮内 孝							ICT活用	○	
授業概要	<p>この授業では、つまずきに応じた運動指導法とともに子どもたちに「やって見せる」ことができるような運動技能の習得を目標とします。</p> <p>課題とする運動につまずいている子どもを指導するときには、その運動の構造や技術の理解に基づいて指導を試み、できばえを評価しさらに指導を試みます。このプロセスを、実技を通して学びます。また、この指導のプロセスを円滑にすすめるためには、指導者がその動きの力のいれ具合や体の動かし方が分かっておかなければなりません。そのためにも、その運動を「やってみせる」ことができるような運動技能も必要です。この授業では、特に器械運動の基本的な技を取り上げその技の習得にも取り組みます。</p> <p>授業者は、小学校教諭として体育授業に取り組んできました。この実践を通して得た知見を、「子どものつまずきに応じた運動指導の指導例」の解説や指導実技に活用して、本授業の学修が深められるようにします。</p>									
関連する科目	幼児体育を事前に履修しておくことが望ましい。履修後は、教科教育法体育を履修することが望ましい。									
授業の進め方と方法	この授業では、グループワークを取り入れて、つまずきに応じた指導法やICT活用の可能性について検討を行います。また、ペア学習を取り入れて動きのできばえの相互評価や練習を行って、主体的に学べるようにします。									
授業計画【第1回】	1. 運動指導のありかた 運動構造の見方や運動技術の捉え方、そしてつまずきに応じた運動指導法の概要について学びます。									
授業計画【第2回】	2. ボール運動 低・中学年のベースボール型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第3回】	3. ボール運動 高学年のベースボール型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第4回】	4. ボール運動 低・中学年のネット型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第5回】	5. ボール運動 高学年のネット型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第6回】	6. ボール運動 低・中学年のゴール型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第7回】	7. ボール運動 低・中学年のゴール型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第8回】	8. ボール運動 高学年のゴール型ゲーム ボール運動系の学習内容とその学習内容習得のための教材を紹介しながら、教材づくりのあり方やゲームに参加しても動けない子ども、ボール操作ができない子どもへの指導法について考えます。									
授業計画【第9回】	9. マット運動:接点系の基本的な技・短距離走:かけっこから短距離走 器械運動のそれぞれの技群の基本的な技の運動構造や運動技術を学んで、つまずきに応じた指導法について考えます。また、それぞれの技の習得のための練習についても取り組みます。陸上運動系では、低学年から高学年への学習内容の系統性と指導法について、動きながら学びます。									
授業計画【第10回】	10. マット運動:ほん転系の基本的な技・リレー:折り返し走からフィールド走 器械運動のそれぞれの技群の基本的な技の運動構造や運動技術を学んで、つまずきに応じた指導法について考えます。また、それぞれの技の習得のための練習についても取り組みます。陸上運動系では、低学年から高学年への学習内容の系統性と指導法について、動きながら学びます。									

授業計画【第11回】	11. 跳び箱運動:切り返し系の基本的な技・走り幅跳び:幅跳びから走り幅跳び 器械運動のそれぞれの技群の基本的な技の運動構造や運動技術を学んで、つまずきに応じた指導法について考えます。また、それぞれの技の習得のための練習についても取り組みます。陸上運動系では、低学年から高学年への学習内容の系統性と指導法について、動きながら学びます。
授業計画【第12回】	12. 跳び箱運動:回転系の基本的な技・走り高跳び:高跳びから走り高跳び 器械運動のそれぞれの技群の基本的な技の運動構造や運動技術を学んで、つまずきに応じた指導法について考えます。また、それぞれの技の習得のための練習についても取り組みます。陸上運動系では、低学年から高学年への学習内容の系統性と指導法について、動きながら学びます。
授業計画【第13回】	13. 鉄棒運動:上がり技・マット運動:連続技・組み合わせ技 器械運動のそれぞれの技群の基本的な技の運動構造や運動技術を学んで、つまずきに応じた指導法について考えます。また、それぞれの技の習得のための練習についても取り組みます。陸上運動系では、低学年から高学年への学習内容の系統性と指導法について、動きながら学びます。
授業計画【第14回】	14. マット運動:連続技・組み合わせ技発表会(実技テスト) 器械運動のそれぞれの技群の基本的な技の運動構造や運動技術を学んで、つまずきに応じた指導法について考えます。また、それぞれの技の習得のための練習についても取り組みます。陸上運動系では、低学年から高学年への学習内容の系統性と指導法について、動きながら学びます。
授業計画【第15回】	15. 体ほぐしの運動・ダンス 体ほぐし運動やダンスの教材を実際に行って、この領域の教材のあり方と指導法
授業の到達目標	1 小学校体育科の各運動領域の運動構造と基本的な運動技術について理解する。 2 器械運動の基本的な技や技を連続したり、組み合わせたりしてできる。
学位授与の方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)/1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	授業中に次の時間の学習内容について提示します。その学習内容について、調べておいて下さい(30分)。
授業時間外学習【復習】	授業後は、振り返りカードの作成や授業で提示した教材と関連した教材を文献などで調べておいてください(60分)。
課題に対するフィードバック	レポートは採点后返却し解説をします。
評価方法・基準	レポート70点 実技テスト30点
テキスト	必要に応じて資料を配付します。
参考書	『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 2017 『体育の教材を創る』岩田 靖 2020
備考	